

公募試験研究課題③：カキ養殖海域の清浄性把握に向けた海水中のノロウイルス指標微生物に関する研究

経費限度額：9,000千円（令和8年度）

研究実施期間：令和8年度～令和10年度

背景、研究の必要性（国際情勢、緊急性等）

令和6年におけるノロウイルスによる食中毒は276件、患者数は8,656人である。病因物質別患者数としては最も多く、全体に占める割合は60.8%である。カキは摂食のために大量の海水を体内に取り込むが、この際に海水中のノロウイルスを体内に取り込み、蓄積させることができており、しばしば食中毒の原因食となる。

カキのノロウイルス汚染を低減するためには、清浄な海域での養殖が重要であるが、養殖海域のノロウイルス汚染を直接的に判断する方法がなく、大腸菌群などの細菌指標を用いた衛生管理がなされている。

カキの生産段階におけるリスク低減措置として、養殖海域の区分管理や転地処理、深吊りといった対策が知られているが、効果的な対策条件の設定にあたっては、海域の衛生状況を正確に把握する必要がある。

EUにおいてはカキ中のノロウイルスについて定量的な管理の検討を開始しているところであるが、定量的な管理が導入された場合、輸出に際してウイルス汚染対策の徹底を求められることや着地検査の厳格化に伴う廃棄・シップバックの増加も懸念される。

このため、国内においても養殖現場の実態に応じた衛生管理を検討しなければ諸外国における取組に大きく遅れることとなり、産業への経済的な影響は大きい。

以上を踏まえ、より高度なノロウイルスリスク管理のために、カキ養殖海域のノロウイルス汚染リスクを判断するための代替指標を用いたモニタリング方法を開発する必要がある。

研究内容

1. 海水中のノロウイルス指標微生物に関する研究

（具体的な内容）

本研究では、環境要因（水深、水温、陸地からの距離、採材時期等）によるノロウイルス指標微生物（トウガラシ微斑ウイルス、糞便系大腸菌等）定量値の変動を明らかにする。また、環境要因の変動によって腸炎ビブリオ等の他のハザードによるリスク増大のおそれがないかについても併せて検証する。

2. カキ中のノロウイルス及びノロウイルス指標微生物の動態に関する研究

（具体的な内容）

本研究では、カキ中のノロウイルス及びノロウイルス指標微生物を経時的に調査し、カキへの蓄積やカキからの排出の程度について、ノロウイルスとノロウイルス指標微生物に相違があるか明らかにする。また、環境要因による上記結果への影響について併せて明らかにする。

達成目標（研究成果の行政施策・措置への活用）

研究で得られた知見を広く公開し、水産試験場等が活用できるようにするとともに、代

替汚染指標に基づくカキの養殖海域区分の検討に活用する。

<留意事項>

- ・研究の方針や詳細については、採択後に行政部局と十分に相談した上で決定することとします。また、研究の進捗状況や得られた成果を行政部局に随時報告するとともに、研究の進め方について随時相談することとします。

本研究課題内容に関する問い合わせ先

担当者：消費・安全局 食品安全政策課

微生物管理班

代表：03-3502-8111（内線 4457）